

WRI Japan News Letter

No. 18

1976年9月8日 発行・大阪市阿倍野区旭町2-12-2 WRI JAPAN事務所

《久米島の報告》の会

とき 9月12日(日) PM 6 ころから。
 ところ サルーション・WRI事務所。
 本地下鉄又は国鉄天王寺下車。南海上町線
 乗り場横・大和駅と三和駅の間の商店街通り
 (パチンコヤのみやまのまある)を約六七百メートル(坂道
 となり、金塚交番をすぎ、そのまじ約百メートル)のみやま
 坂尾角を左折、10メートルで右折、天龍湯をすぎ、旅館、
 千成とブリキヤの間の小路へ左折すると右側、泉原文化(つぎ
 当りに石段と土産くすのまかみえる)との間の鉄道を昇った
 最初部の部屋がサルトン。徒歩で約十分以内。
 (津浦へ出かける前、反民族の割合でその
 報告をいとうう語が出た。切角ゆく以上は
 それ位のことほする程でなければと、我と
 我身をはげます為にも、「うん」と云った。
 が、いまそれは正直なところ逃げ出した
 ほどの大向島で狼狽している。出発前、久
 米島旅行は、日本軍の島民虐殺というそ
 れがシヨツキングであればあるほど、非帯
 に理非が明快なものととして、単純に全貌が
 みえていた。それが現地へいくと……(そとより) 概
 ずか十日定らずの旅は、むしろ一しゆんと
 もなうべきもので、ことさら立てて語りう

るほどのものではない、と云えば云えるだろ
 う。だがぼくらは、その一しゆんの裡に、い
 わばこの世の隔りの身の毛がよだつおそろし
 さと、身も心もころけるような甘美なうつく
 しさの一つに似たものに、たとえは死欲と極
 楽を一つの絵としたものを、一きよに、かい
 まみてしまったのだからと云おうか。実のところ
 久米島から帰って、数日間の旅心地がうす
 れると共に、沢木に重くくしく逃げ場のない
 おもいの日々がたかまつてきて、どうしよう
 もないまま……なのだから。(kou)
 主催・反戦市民懇談会・参加歓迎。

《直接行動》読者の会

とき 9月19日(日) PM 1 ころから 4 30 ころ
 ところ(国鉄大阪駅西口向い側・旭屋書店横
 パチンコヤ小路入ル10メートル、喫茶りいびる
 隣り)喫茶大X.ガ.の三階、小集会室。
 会費 百円ぐらい。《直接行動》の目を種
 にしながらの雑談会。
 (ぼく個人としては、機会をみつめて、自分
 の本音をさらけ出すこと。一た之すとして
 も。ということを自分に言いかけせて、出
 席したいーと思つていきます。) kou

WRIの仲間への命言書・ハ切手VへのりVを!

